

ことばと文化Ⅱ (多文化理解とことば)

(1) 科目の紹介

| | | | |
|--|--|-----------|-----------------------|
| 基本情報 | 平成 25 年度・教養教育・後期 | 曜日・校時 | 火 5 限 |
| モジュール名 | ことばと文化 (Ⅱ) | 科目名 | 多文化理解とことば |
| 教員名 (所属) | 橋本健夫 (大教セ), 楊曉安, 劉卿美, ベー・シュウキー (言語セ), 川越明日香 (大教セ) | | 教室 C-16 |
| 選択者数 | 50 名 | 2 年生の所属学部 | 医学部 歯学部 工学部 環境科学部 |
| 再履修数 | 4 名 | | (20名) (4名) (9名) (17名) |
| 授業のねらい: | | | |
| 国際社会で活躍する人にとって多文化理解能力は必須である。本授業においては、中国・韓国・マレーシアの文化を取り上げ、その特徴を理解するとともに、相互理解を深める方法について考える。 | | | |
| アクティブ・ラーニングに向けて工夫した点: | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習を行った。 ・プレゼンテーションの機会があった。 ・教員は、レポート用ルーブリックを使って学生の予習レポートを評価した。 ・学生は、プレゼン用ルーブリックを使って互いのプレゼンテーションを評価した。 ・クリッカーを積極的に活用し、クイズやアンケートを行った。 | | | |

(2) 学修の評価

| | |
|---------|--|
| 到達目標 | 他国の文化の特徴を理解するとともに、共生のための相互理解のあり方を考える力を身につける。 |
| 成績評価の方法 | 各教員 25 点 (予習課題+プレゼンテーション、ディベート等、授業中の活動+定期試験) で採点を行う。 |

(3) 授業の進行

| 概要: | | |
|-----|--|--------------------------------|
| 回 | 学習内容 | 授業方法 (講義,グループワーク,プレゼンなど) |
| 1 | オリエンテーション (モジュール、本科目の意義) | クリッカーの活用 |
| 2 | オリエンテーション (ルーブリックの確認、レポートの書き方、LACS 説明) | |
| 3 | 韓国のイメージ | ブレインストーミング、プレゼンテーション |
| 4 | 韓国人の成長と行事 | グループ討議、プレゼンテーション |
| 5 | 韓国理解のキーワード | 講義 |
| 6 | 日韓のモノ作り | ディベート (ソニー派とサムスン派、トヨタ派とヒュンダイ派) |

| | | |
|----|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 7 | 多民族・多文化・多言語・多宗教の国とは？！ | ブレインストーミング、グループ討論、oral report、DVD |
| 8 | 三つの時間割表からみるマレーシアの教育と言語 | クイズ、グループ討論、oral report、講義 |
| 9 | 多民族社会の魅力と課題 | クイズ、グループ討論、oral report、プレゼンテーション、講義 |
| 10 | 日本とマレーシアの関係について——日本人の人気移住先 NO.1？！ | クイズ、DVD、グループ討論、oral report |
| 11 | 中国語の諧音語と中国文化 | 講義、グループ討論 |
| 12 | 中国語の語順と中国文化 | 講義、グループ討論 |
| 13 | 日本語と日本文化 | プレゼンテーション |
| 14 | いずれかの国について（日・中・韓・マ） | プレゼンテーション |
| 15 | いずれかの国について（日・中・韓・マ） | プレゼンテーション |
| 16 | 定期試験 | 筆記試験 |

（４）授業の成果

| | |
|--------|--|
| 全体の総括 | 5人で事前打ち合わせを行い、それぞれの担当授業での活性化を図った。また、ファシリテーターが毎回の授業に参加をし、打ち合わせの内容が遂行されているかをチェックした。このような状況下で行った授業ではあるが、学生の欠席が若干多い感じがした。これは、授業への十分な取り組みになっていないことを示すものかもしれない。一方、留学生の聴講があったが、最後まで授業を受け終わった人は少なかった。この点の課題が残った。 |
| 今後の改善点 | さらに本授業を充実させるためには、相互の授業参観を行うことなどによって、教員団の相互理解を図り、充実に向けた方法を話し合う必要がある。 |

（５）アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

| | |
|---------|---|
| ポイント提案 | モジュールⅠに比べて、受講生の人数が少なくなったことで、授業の進展が円滑になった。この点から言えば、アクティブ・ラーニングを標榜する授業においては、受講生の人数を考える必要がある。また、担当者が複数名のときは、より深い相互理解が必要となっている。 |
| 参考になる資料 | 特になし |

（別添資料）

- ・レポート作成用ルーブリック
- ・プレゼンテーション用ルーブリック